

⑦1高田松原津波復興祈念公園整備事業

受賞機関 国土交通省 東北地方整備局 東北国営公園事務所
岩手県 沿岸広域振興局 土木部 大船渡土木センター
陸前高田市

キーワード 奇跡の一本松、震災伝承、震災からの復興の象徴

全建賞審査委員会の評価ポイント

甚大な被害を受けた陸前高田市の高田松原地区における公園整備事業。遺構の活用による震災の歴史伝承機能や防潮堤への覆土・植栽による防災と景観向上を兼ね合わせた取組みが評価された。

1. はじめに

陸前高田市の高田松原周辺は、かつて約7万本の松と砂浜が存在し、国の名勝にも指定され、海水浴等で年間約100万人の観光客が訪れる三陸沿岸を代表する景勝地であった。

東日本大震災津波により、陸前高田市では約2千人が犠牲となり、県内最大の被災地となった。

高田松原では、多くの松や砂浜が流出したが、1本だけ生き残った松は、多くの人々を勇気づける「奇跡の一本松」として復興への象徴となった。

この一本松をはじめとした震災遺構等による震災の伝承と、追悼・鎮魂の場として整備を進めた高田松原津波復興祈念公園が令和3年12月に全面供用となった。

2. 事業の概要

高田松原津波復興祈念公園は、東日本大震災が未曾有の大災害であったことに鑑み、震災からの復興の象徴として、国、県、市が連携しながら整備を進めてきた。

また、計画策定にあたっては、有識者からの助言のほか、市民と意見交換を行うなど、地域との連携による整備にも取り組んだ。



国営追悼・祈念施設周辺

約130haを有する公園のうち中核施設となる国営追悼・祈念施設周辺は、津波の襲来した広田湾を指向する「祈りの軸」を中心に、「奇跡の一本松」、東日本大震災

津波伝承館、道の駅「高田松原」、震災遺構「タピック45」、海岸防潮堤等と一体となった追悼・鎮魂の場となる空間として整備した。

また、計画堤防高T.P.+12.5mの海岸防潮堤の背面には盛土を行い、震災以前から自生していた在来種の海浜植物を移植することにより、自然環境の再生に寄与するとともに、公園としての景観向上に努めた。

3. 事業の成果

令和元年9月22日に開館した東日本大震災津波伝承館は累計来館者数が令和4年4月末に50万人を超え、震災伝承の一翼を担っている。



オープン式典（令和元年9月22日）の様子

また、震災遺構として整備した気仙中学校やタピック45などをガイド付きで案内する「高田松原津波復興祈念公園パークガイド」の実施により、震災の記憶を来園者に伝えている。

このほか、国、被災4県及び仙台市で構成する震災伝承ネットワーク協議会による伝承施設のネットワーク化を図る取組「3.11伝承ロード」の施設のの一つとしても一翼を担っている。

4. おわりに

本公園は、令和5年春季に開催される全国植樹祭の式典会場となっており、天皇皇后両陛下の御臨席を賜るほか、県内外から多くの方々が来場される予定であり、様々な場面を通じて、震災からの復興の姿を国内外へ発信することが期待される。

賛助会員 アジア航測(株)、オリエンタル白石(株)、西松建設(株)、東日本コンクリート(株)、(株)復建技術コンサルタント、(株)平野組